2023 年度　卒業生を対象とした大阪医科薬科大学看護学部卒業生に関するアンケートのまとめ

就職先

1. 調査目的

・本学の教育により修得した能力が社会においてどの程度役立っているのか、社会・医療現場が求めている人材育成ができているのか、などについて今後の大学教育のあり方を検討するための基礎資料として活用する。

2. 調査期間

・2023 年 1 月 11 日～2023 年 1 月 31 日

3. 調査対象

・2020～2022 年度就職先　54 箇所

4. 調査方法

・自記式質問紙調査（Google Form）を実施した。依頼文には、個人や団体が特定できるかたちでの公表はしない旨を明記した。

5. 調査項目

・調査項目は、1）属性（施設名、病床数、種類)、2）過去 5 年間での本学卒業生採用人数、3）現在も勤務している人数　4)ディプロマポリシーおよび社会人基礎力、4）卒業生のイメージ、5）採用意向、6）本学看護学部に期待すること、とした。

6. 調査結果の概要

・14 施設から回答が得られた（回答率 25.9%)。その概要は、以下のとおりである。

・採用人数は 1 人が最も多く、現在も勤務している人数では 0 人も認められた。

・ディプロマポリシー等の重要度が高かった項目は、「生命の尊厳及び人権の尊重」「コミュニケーション能力」「ストレス対処能力」などであり、低かった項目は「国際的な視点」や「情報通信技術(ICT)の活用力」などであった。

・ディプロマポリシー等の入職時おける習得度が高かった項目は「生命の尊厳及び人権の尊重」「組織で働くための規律」「ストレスコントロール力」などであり、低かった項目は「国際的な視点」「看護に関する課題の探求」などであった。

・本学卒業生についてのイメージは肯定的なイメージと否定的なイメージの両者が散見された。

・今後の採用意向ではすべての施設が採用を継続又は増加する意向であった。

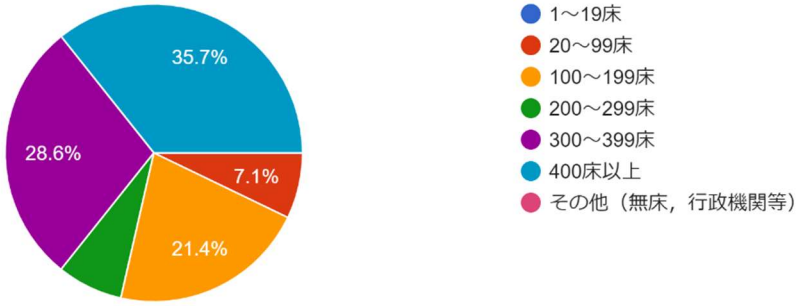
・今後の看護学部に期待することが多かった項目は「看護実践能力の向上」などであった。

Ⅰ．施設の属性について

1．施設名

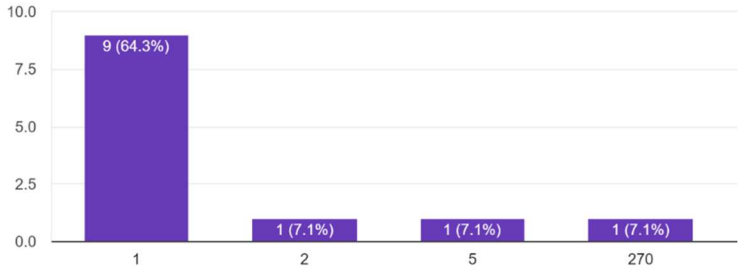
大阪旭こども病院、神戸海星病院、社会医療法人愛仁会、大阪鉄道病院、阪和いずみ病院、大阪医科薬科大学病院、荒木記念東京リバーサイド病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、守口敬仁会病院、独立行政法人国立病院機構 京都医療センター、ほうせんか病院、三田市民病院、市立池田病院、高槻赤十字病院

2．病床数

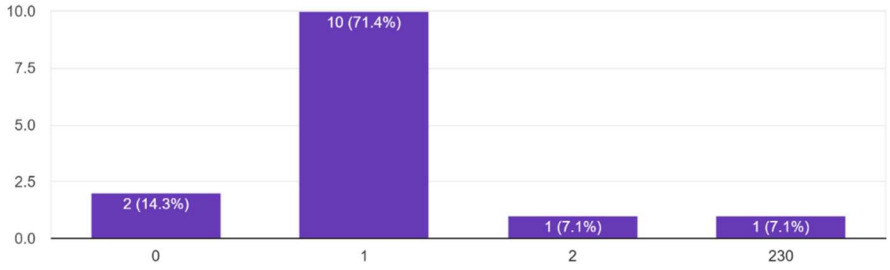


3．種類

II．過去５年間での本学卒業生採用人数

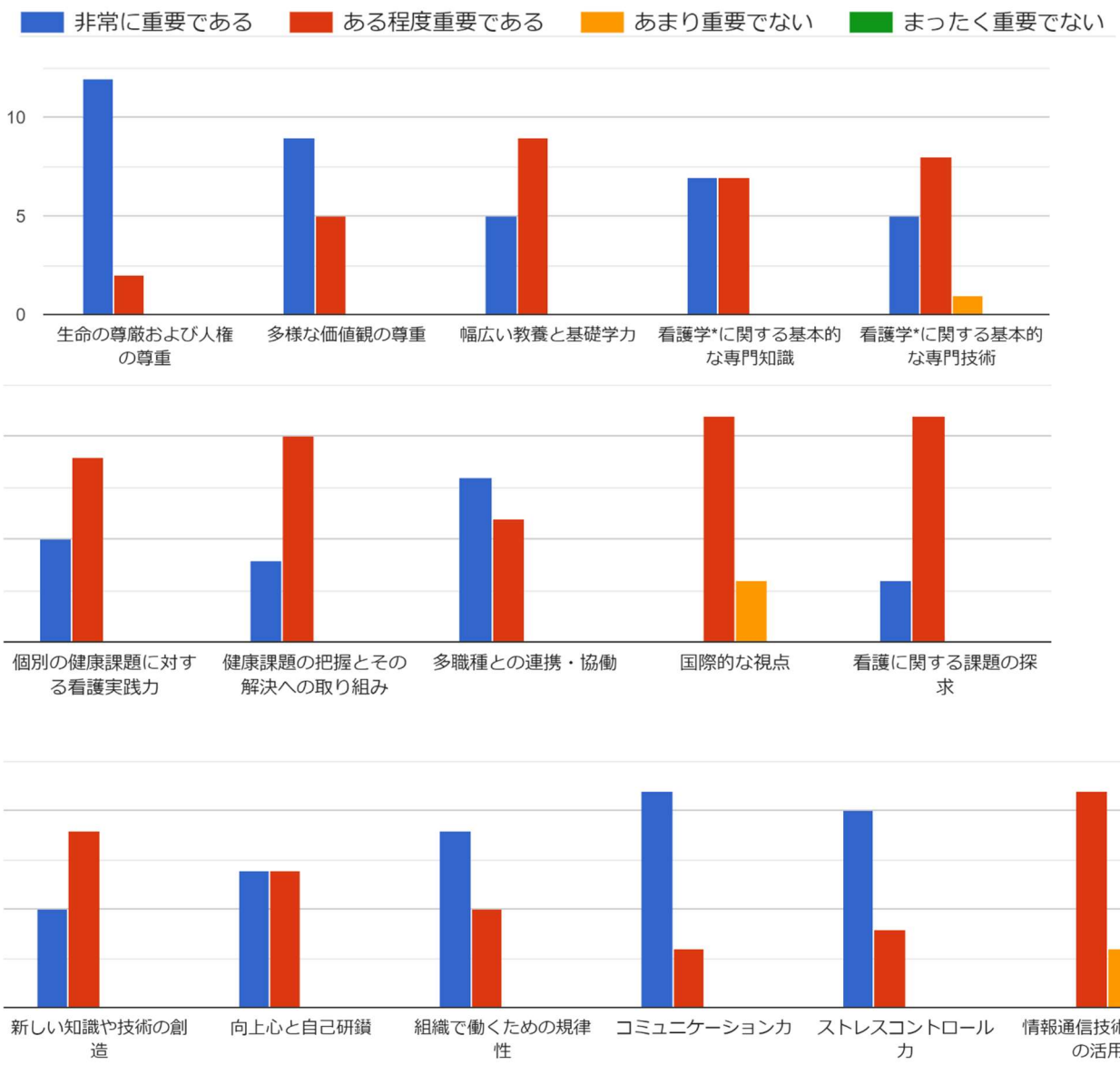


III．現在も勤務している人数

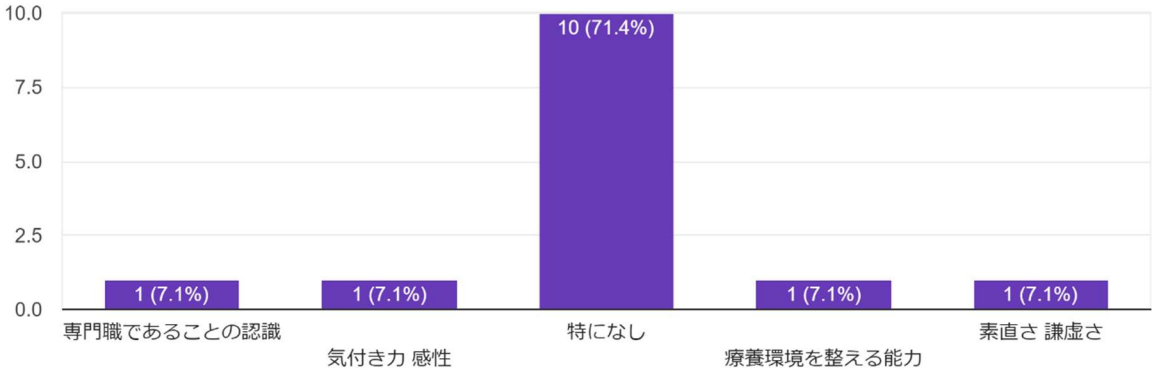


Ⅳ. ディプロマポリシーおよび社会人基礎力について

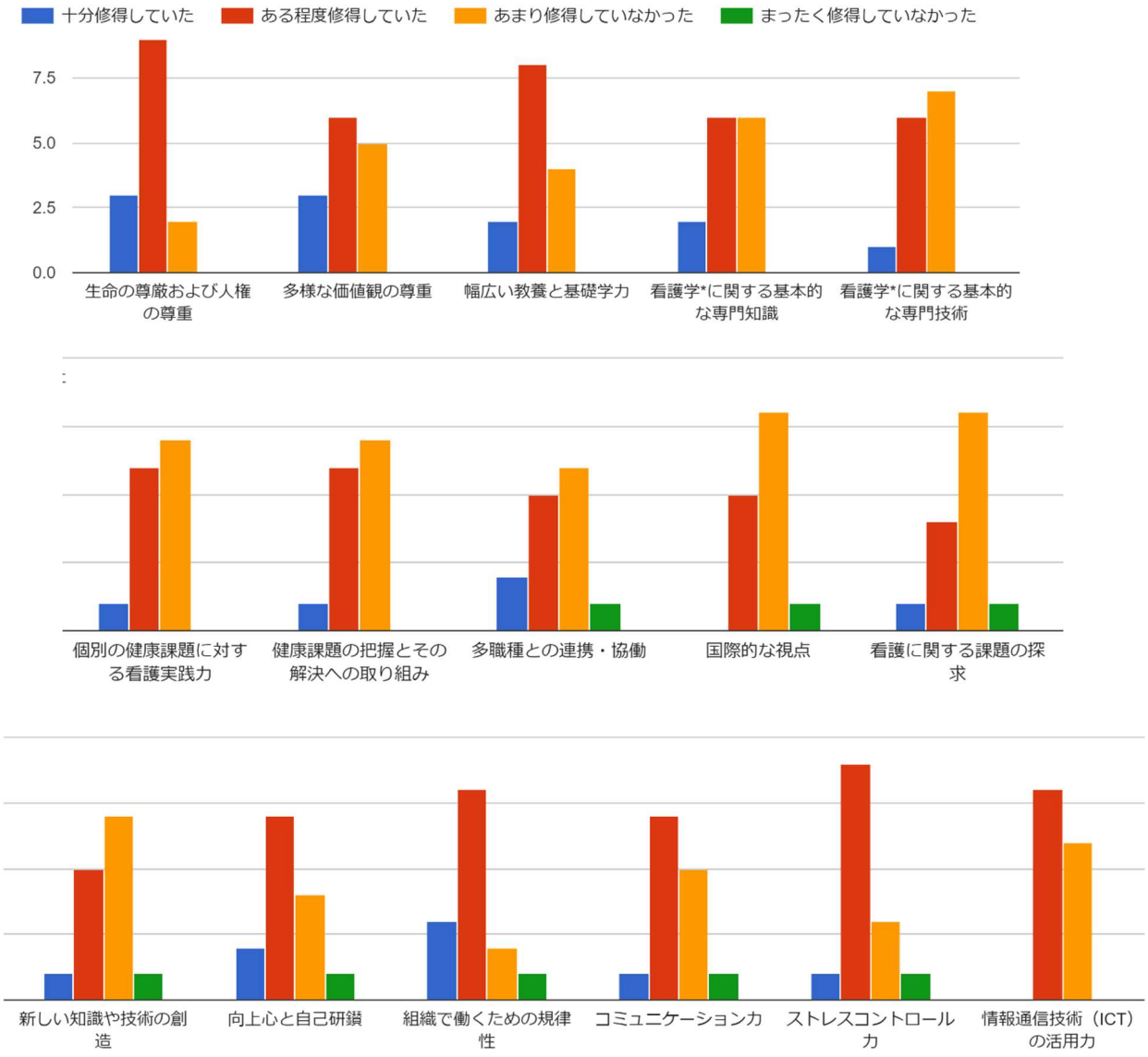
1．重要度



2．上記以外に重要だと思われる能力



3．入職時における卒業生の習得度



Ⅴ．本学卒業生についてのイメージ

元気で明るい

知識はあるのかもしれないが、現場で活用できていない。繋がっていないと感じている。

学校の教育というよりは、パーソナルてきな部分が大きいと感じています。

連続（年度）して、半年以内に退職した

非常に真面目、協調性はある、思ったことをきちんと発言できる

対象を理解するための基礎的な知識が習得できている

真面目な方が多い

ゆっくり、のんびりのイメージ

卒業生というよりそれぞれの個性があるので、特にイメージはありません

基礎力を身につけており、真面目に取り組む姿勢と謙虚な気持ちで指導を受け実践能力の向上が期待される。

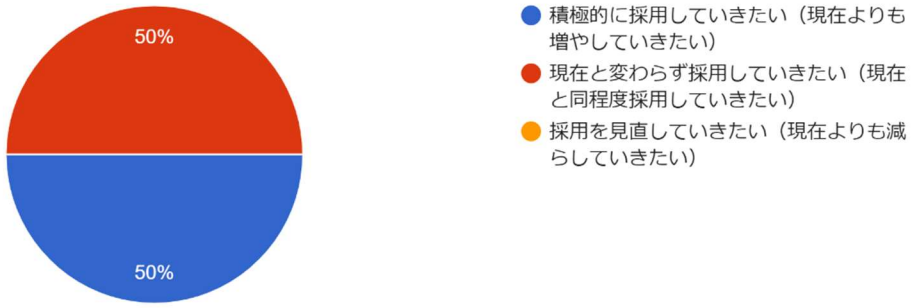
よく頑張ってくれている

学習意欲は高い

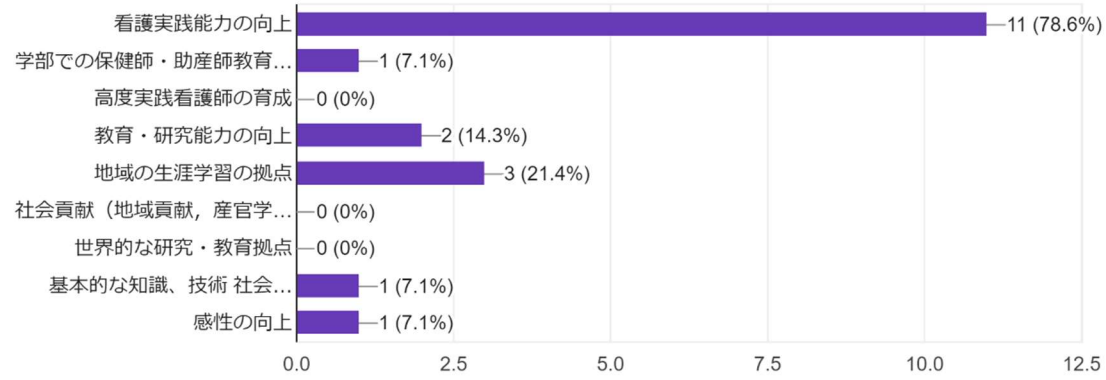
素直で努力家

責任感も強く向上心も高い
基礎学力は高い

Ⅵ. 今後の卒業生の採用意向



Ⅶ. 本学看護学部に今後期待すること



Ⅷ. 本学看護学部の教育に関するご意見・ご要望

実習で知識と臨地での学びをつなげることを学内でも強化していただきたい。
学生時代に多くの経験を行っているか否かで、新人として採用時のプレッシャーや自信の持ち方には差が出てるように感じます。卒業生が多くはないため、なかなか連携する機会は少ないかもしれませんが、採用後にも教育は継続していきますので、病院側への要望などあれば教えていただけると幸いです。
今後ともよろしくお願いいたします。
特にありません（4）

以上